



RI会長 ゲイリーC.K.ホアン
第 2640 地区ガバナー 江 索和



2014-2015年
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1812 回例会

平成 26 年 12 月 15 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F
ゲスト卓話 海南省長 神出 政巳 様

1. 開会點鐘

- | | |
|-------------|----------------|
| 2. ロータリーソング | 「それでこそロータリー」 |
| 3. ゲスト紹介 | 海南市長 神出 政巳 様 |
| 4. 出席報告 | |
| 会員総数 48名 | 出席者数 29名 |
| 出席率 60.42% | 前回修正出席率 80.83% |

5. 会長スピーチ

みなさん、こんにちは！神出市長さん、ようこそお越し下さいました。神出市長さんにはのちほど卓話をして頂きますのでみなさんご清聴下さい。

A portrait of a man with white hair, wearing a light blue suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking slightly to the right of the camera. The background is plain white.

次に地区のゴタゴタで連日いただいたフックスは200枚ぐらいはあるでしょうか。そのゴタゴタも少し落ち着いてきたのでしょうか。落ち着いてほしいものです。

3番目に会長ノミニーの使命の件です。これもロータリーの友情のおかげで上野山さんに快く引き受けたきました。改めて上野山さんに感謝申し上げます。この様にして、この半年を簡潔にまとめてみました。おわります。ありがとうございます。

12月は家族月間です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

全長・山東 剛一

事·中西 李文

SAA・山田 裕之

<http://www.kainaneast-rc.jp> E-mail : info@kainaneast-rc.jp

産業を中心として栄えて参りました。

又、室町時代が起源と言われている黒江地区の「紀州漆器」別名「黒江塗」は、会津・輪島・越前塗と共に全国四大産地の一つにも数えられ、重要な地場産業であります。一方、内陸部では、全国シェア8割を占めるブラシやお風呂マットなどの日用家庭用品産業や農業を中心に栄えて参りました。農業については、温暖な気候を生かしビワ、桃、キウイなど果樹栽培が盛んであります。特に、これから季節、コタツに入つて食べて頂きたいのですが、美味しい温州ミカン発祥の地として知られています。年明けからは、山小屋で貯蔵し熟成させたみかんを「下津みかん」のブランド名で売り出しますので、是非共ご賞味下さい。

和歌山県と言えば、大阪市内から遠いというイメージを持たれていると思いますが、本市には、近畿自動車道のインターチェンジが3カ所もあり、車で関西国際空港までは約30分、天王寺辺りでも約60分、JRを利用すれば大阪駅まで約1時間10分で行けるなど、通勤・通学など非常に便利なまちであり、自然豊かな住みやすいまちであります。

本市を取り巻く環境についてであります。先般、日本創生会議より、人口減少・消滅可能都市のレポートもありましたが、御多分に漏れず、海南市は、平成17年の合併当初、約6万人のまちとなりましたが、右から2列目の人口合計の欄のように年々減少しています。また、人口が減少している年代が若年層となっていることから、右端の列は高齢化率を記載していますが、高齢化率が高いといわれる和歌山県の中でも年々高齢化率が高くなり、県内の平均値をも超えていく状況であります。

想定される南海トラフ巨大地震により、8mの津波が本市沿岸部に襲来し、被害想定では、建物の全壊半壊を合わせて約17,000棟、死者約4,000人とされており、壊滅的な打撃を受けることとなります。

これは、浸水予想図で、赤色部分が5m以上、ピンクが2~5m、オレンジが1~2mの浸水エリアとなっています。この色が着色された区域イコール、本市の核となるべきところであります。簡単に位置関係を説明しますと、西に和歌山マリーナシティ、東、右によって関西電力㈱や新日鉄住金㈱、中央に南北に国道42号が通っており、さらに一番東、右にJR海南駅がございます。そして、国道とJRに挟まれた区域に、防災拠点となる市役所、消防署、警察署が位置し、軒並みピンク色で被災するエリアにあるような状況であります。先ほど見て頂いた商店街の写真は駅の西側・左になります。また、後ほど説明の中に出てくる新病院、ショッピングセンターもこの中に位置します。

次に、今後のまちづくりへの取組みについてであります。津波により被災するとわかっているところを市の中核として整備する、というあい反する中でのまちづくりになり、この課題を解決するには、この津波浸水エリア外に新たなまちを移すとなります。しかし、高台移転ということになれば、多額の費用が必要になること、日頃の利便性が低下し、また、移転する場所もない、被災していない中でどこまで市民の方の理解が得られるかと言ったことから、現状は、津波から人命を守るための避難場所や津波緊急避難ビルの整備、自主防災組織の充実等の取り組みは行うものの、高台移転等のまちづくりは考えず、海南駅、主要国道、港湾が集中するこの地域でまちづくりを考えています。【参考までに：浸水エリアは、約4km²であり全体面積の約4%に約14,000人（約26%）の市民の方々が居住しています。】

そういうながらも期待していたのが、平成 21 年度から、国の直轄事業として行なって頂いております浮上式防波堤(約 230m)工事であります。この事業は、平時は海底に格納されている鋼管が、いざという時に送り込んだ空気の浮力で海面上約 7.5mまで浮上し津波を食い止めるというもので、これが完成しますと、津波から多くの人命や財産を守ることが可能となり、何よりも市民の方々が安心して日々の生活を送れることができると考えていました。しかしながら、東日本大震災以降、内閣府の想定見直しにより、想定震度が 6 弱から 7 に大きくなったり、また津波高も 6m から 8m になったことから、当初設計時の浮上式防波堤の構造上、浮上しない恐れが出てきたという事で、構造の再設計やそれに伴う事業費も含め、今後どうするか検討されており、近々方向性が示されると聞いています。

本市のまちづくりについてですが、平成19年3月に、「第1次海南市総合計画」を策定し、市の将来像として掲げた「元気 ふれあい 安心のまち 海南」を目指し、新しいまちづくりを進めております。こちらは、市役所周辺の中心市街地の活性化に取り組んでいる区域になります。【中央に市役所、右側に海南駅があります。】平成21年度からまちづくり交付金事業を活用しながら、まちづくりを進めて参りました。その主な取り組みとして、病院用地取得事業や病院駐車場整備事業に『まちづくり交付金』を活用させて頂き、平成25年3月1日に地域医療の中核を担っていく海南医療センターをこちらに開院させました。また、その他の事業については、都市計画道路や既存市道の整備を行いました。そして、昭南工業跡地には、大型スーパー・家電量販店などを誘致しました。大型スーパーには昨年150万人の方が来店し、売上30億円と聞いています。

左上の写真は、海南駅の写真であります。地方の小都市ではありますが、鉄道高架となっています。昭和58年4月に事業認可を頂き、県が事業主体となり、15年・約140億円(海南市の負担は20億円)を掛け、2.1kmを高架にし、15の踏切を無くし、駅も新幹線の駅の様に生まれ変わりました。左下は、『まちづくり

り交付金』を利用し、整備させて頂いた旧市民病院跡の南側の都市計画道路の写真であります。右上の写真が海南医療センターの外観写真です。病院の概要については、総事業費約 52 億円、鉄筋コンクリート造り 5 階建、病床数 150 床、診療科目は、小児科、婦人科を含む 12 科目となっています。和歌山医科大学から、産婦人科医が派遣されれば二階に産婦人科を再開出来るようスペースは取っています。また、地震対策として、免震構造の採用や非常用電源を確保したものとなっています。



右下が誘致した
大型スーパーとなっています。この右側に家電量販店
がございます。今後も引き続き、この地域の整備を進
めて参ります。

具体的には、先ほど津波対策として、高台移転は考えないと申しましたが、市役所や消防署、警察署など主要防災拠点施設が浸水エリアにあることから、巨大地震が発生すれば軒並み被災する可能性は高いのですが、消防と警察は平成11～13年度に建設され新しいこともあり再度移転して建設と言うのは難しいものの、今後東部の出張所や駐在所を建て替える際には代替指揮所の併設を考えています。

その様な中で、海拔 1.8m の所にある市庁舎は、築後 50 年が経過しており、被災後の復旧・復興拠点とならなければならぬため、高台への移転を進めています。移転完了は、3 年後の、平成 29 年 10 月を目指しています。そして、市役所が移転した後には、その周辺地域がさびれないよう今以上に集客力のある図書館機能を有した市民交流施設や都市公園の建設を検討しています。又、旧市民病院跡地には、認定こども園の建設を進めている処であります。認定こども園は幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設であり、長時間保育・低年齢児保育・病後児保育等、働く女性にニーズに応える施設であります。

今後、これらを撤去して先ほど説明した事業を行う予定で、その財源として、都市再構築戦略事業を予定しています。ただ、その前提として、平成28年度までに都市機能誘導区域を、平成30年度までに居住誘導区域を定めた立地適正化計画の策定が必要と言われています。この立地適正化計画は、本市の課題でもある少子高齢化社会を見越したまちづくりであるコンパクトシティーを目指すためのものでありますが、この区域設定はある意味、市街化区域と調整区域の線引きのようなものにならないか、と危惧しています。と言いますのも、過去に旧海南市において線引きをしていましたが、元々平地部が少ないうえに、線引き設定したため、必要以上に市街地の地価が高くなってしまったという経過があるためあります。近年、線引きは廃止致しました。

次に今後のまちづくりに係る課題についてであります。これは、先ほどの地図の航空写真です。

今後、居住誘導区域を設定するについて「人口密度を維持するエリア」になるであろうと思われる区域は、この辺りを含んだものになると考えていますが、このへんは、古い住宅が多く建て込んでいます。

そのため、居住を誘導するにしても、古く利用されていない空き家が建っており、新たに住むスペースがないといった状態で、今後、民間のデベロッパーの資金を活用するなど何らかの方法で土地・建物の有効活用を図り、市民の呼び込みを図ることが大きな課題となっています。また、近年は空き家に関する苦情も多く寄せられます。平成20年の住宅土地統計調査によると、本市には推計4,400戸の空き家があり、現状ではもっと増えているものと思われ、今年の7月30日の新聞報道でもありましたが、和歌山県は全国第3位、約18%の空き家率となっています。そして、空き家の中でも問題となるのが、長年放置された危険家屋となったものがあります。苦情があった建物の所有者には、適正な維持管理をお願いする文書を送付したり、ご自宅にお伺いしたりするのですが、早急に家屋の撤去や修繕していただけるかどうかは別として、約7割の方が何らかの反応があります。ただ、これは建物の所有者が特定できた物件に限ります。残りの多くの物件については、建物所有者が特定できないため、対応ができない状況であります。未登記の家屋については、特定する手段が近所の方からの聞き込みしか方法がなく、長年空き家になっている場合は、近所の方とのつながりもなくなっているため、所有者の特定ができなくなり、連絡のしようがありません。

また、登記されていても所有者が既に死亡している場合は、本市には人口が少なく特定行政庁の建築主事がいない為、建築基準法による根拠法令が無く、相続人の戸籍調査にも難儀している状況であります。多くの自治体では空き家に関する条例を制定し対応しているようですが、本市においては、先般、国会において、議員立法による法案も制定されたことから、所有者を特定するための法的根拠さえ具体的に示されれば、一定の空き家所有者に連絡でき、対応してゆけるものと考えています。

結びに、今回は、本市の核となるべき地域のまちづくりについて説明させて頂きましたが、今後この事業を施工し、成功させるためには、多くの関係者の方々にご協力頂かなければならぬ事案が、生じてくると考えますので、何卒、ご支援・ご協力をお願い申し上げ、卓話を終わらせて頂きます。

8 介入占鏡

次回例会

第 1813 回例会 平成 26 年 12 月 22 日(日)

12:30~ 海南商工会議所4階

金昌卓話

ロータリー財団委員長 小椋 孝一 君

米山記念奨学会委員長 三木 正博君



ニコニコ・BOX

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 山東 剛一 君 | 神出市長さん、本日はお忙しい中、ご苦労様でございます。 |
| 中西 秀文 君 | 神出市長、今日、卓話宜しくお願ひします。 |
| 田岡 郁敏 君 | 神出市長様、お忙しい所ありがとうございます。 |
| 山田 裕之 君 | 神出市長、本日卓話宜しくお願ひします。 |
| 岸 友子 君 | 神出市長様、本日は卓話ありがとうございます。 |
| 宇恵 弘純 君 | 市長、40周年記念式典に招待しています。宜しくお願ひします。 |
| 小椋 孝一 君 | 田中理恵（体操選手）さん一緒にお話をしました。 |
| 理事一同 | 理事会の残金です。 |



ロータリージャパン

ヒマラヤでの家庭排気対策プロジェクト

ヒマラヤ山脈に登ることを何年ものあいだ夢見てきたジョージ・バッシュさんは、タオス・ミ



ラグロ・ロータリークラブ、米国ニューメキシコ州)は、2001年、64歳で初めてヒマラヤ登山に挑戦し、想像をはるかに超える経験をしました。しかし、厳しい現実も目の当たりにしました。多くの家屋で家庭排気による煙害が起きており、家の中に穴を掘って火を起こす家庭や、家畜の糞を燃料代わりにする家庭がありました。煙に包まれているようだったと話すバッシュさん。「咳や涙がでて、逃げ出したくなつた」と振り返ります。煙害は、健康被害をもたらします。世界保健機関(WHO)の調査によると、2012年、石炭や木材、バイオマス燃料を燃やして調理をし、その家庭排気による大気汚染で430万人の命が奪われました。犠牲者のうち、5歳未満の子どもが半数以上を占め、専門家は、台所で火を焚くことは、1時間に400本のタバコを燃やすようなものだと警告します。

決意とともにヒマラヤを再訪

この状況を何とかするために、バッシュさんは2009年にヒマラヤを再訪しました。燃焼効率の良い調理用ストーブを設置することで問題を解決できることを知ったバッシュさんは、燃焼効率の良い調理用ストーブの考案者と連絡を取り、ネパ

ールで使用する可能性を検討。そして2010年、48台のストーブを家庭に提供しました。翌年に現地を訪れたバッシュさんは、これらのストーブが好ましい影響を生んでいることを確認し、住民からは、より少ない燃料で手早く調理できるとの声が寄せられています。その後もプロジェクトは続き、今日までに3,000台以上が提供されています。都市部から離れた辺地にはヘリコプターで運び、輸送に数日を要することもありますが、ストーブ1台の購入、輸送、設置にかかる費用は、わずか約100ドルです。ストーブを受け取った家族は、そのお返しとして、地域社会での奉仕活動に参加したり、学校や診療所の備品を購入したりします。地域によっては、利用者にストーブ代のごく一部を支払ってもらい、それを小口融資に充てる工夫も行われています。このプロジェクトは、さらに多くの支援を必要としています。これまでに、バッシュさんの所属クラブや、ロータリアン個人からの寄付が寄せられているほか、去る2月には、カトマンズ(ネパール)のロータリークラブが加わり、90台が新たに設置されました。これらの支援を受け、さらに多くの変化をもたらすために意欲を燃やすバッシュさん。「山間部にはこのストーブを必要とする人びとが大勢おり、みんなに提供できれば素晴らしい変化が生まれるでしょう」

人類最大の敵、エイズとの闘い

昨今のエボラ出血熱の感染拡大により、何千もの命が奪われ、世界が大きく揺れました。しかし、社会に与える影響という点で、エイズを凌ぐ疾病はありません。現に、医療が進歩した今日でも、アフリカを中心に毎年100万人の犠牲者を出しています。「エボラは最悪レベルの流行となつたが、HIV/エイズの状況はさらに深刻」と述べるのは、イリノイ大学シカゴ校のグローバル保健センター所長を務め、12月1日のRotary's World AIDS Dayで講演を行ったティモシー・エリクソンさんです。「エボラは未解明のことが多く、メディアも敏感に反応しますが、さらに多くの命を奪っているエイズへの関心を失つてはいけません」と生物医学の進展により疾病撲滅が可能な今こそ、支援をお願いしたいと訴えます。今日、HIV感染者は、医薬の助けによってエイズ発症を抑え、治療を受ければ、他者を感染させる可能性を95%も低減できます。

